

# 新年を迎えて



代表取締役社長 野澤 俊太郎

新年あけましておめでとうございます。

ケミカルタイムズの読者の皆様、ならびにご執筆の先生方におかれましては、さぞかし良いお正月をお迎えになられたことと心よりお喜び申し上げます。

昨年は、地球環境の悪化を予感させるような、とりわけ異変に満ちた気象の変化もみられました。自然の驚異を感じると同時に、大切な自然の恩恵を次の世代に引き継げるよう、弊社も一化学企業として、「地球と共存できる優しい化学会社でありたい」との思いをめぐらす一年でもありました。

最近の経済観測によると、わが国の景気は巡航速度で成長を持続し、デフレもほぼ終息の兆しであり、また米国では景気減速に伴って個人消費の伸びは鈍化しつつも企業の設備投資の底堅い伸びが下支えしているようです。一方、原油相場は中東情勢の緊張と中国などの需要増加の下、巨額のヘッジファンドの流入で変動幅が大きくなるとともに高値圏にあり、景気情勢はもろ手を挙げて楽観視できないように感じます。

このような状況のときこそ、我が身を振り返り「次への発展のため、成すべきは、何か」をじっくり考え、自らの視野を切り開かねばなりません。弊社でも、これまで未取り組みの課題を含め、次への新たな構想にアプローチしています。一昨年、CSR(企業の社会的責任)の枠組みを社内に導入したのも、

時代の要請を単に受け入れるに留まらず、化学薬品を扱う事業者として、またエキスパートとしての自負を堅持していくためにも、自らの姿勢を律しつつ発展を目指す、そのような気風を常に大切にしたいとの思いによるものです。

CSR部を一昨年に設置して、まだスタートしたばかりですが、弊社にしかできないような活動の取り組みもあろうかと今後の活動には大いに期待を寄せているところです。

昨秋、「創立70周年応答の2015年、弊社のあるべき姿」を映し出すべく、経営陣により中期経営計画の施策をとりまとめました。その折にも社会的に存続する価値ある企業の礎となるようCSRの枠組みを中心に据えつけたという次第です。

弊社は、ライフサイエンス、バイオ、化成品、電子材料・IT分野など多岐に亘る事業構成により、国内、米国、中国、台湾、シンガポール、マレーシア、さらに広域へと活動を拡大して参ります。この前途をより輝かしく確実なものとするにも、また真価を備えた企業として永続するためにも、人事のあるべき姿、人材の育成には意を注ぎ、一層機能的な組織造りを目指す所存です。機敏な行動を伴う弾力的な企業集団の結集を目指して、今年も総力を挙げ新たな年にチャレンジいたします。皆様におかれましても、この一年が光輝に満ちた幸多い年でありますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。